



## 紛争の影響下に生きる 子どもたちに寄り添う

スーダンでは2018年末以降、30年続いた独裁政権の退陣を求めるデモが首都ハルツームを中心に続き、2019年4月にバシル大統領が解任、政権が崩壊しました。その後は軍がクーデターを宣言し、事実上は権力を掌握しましたが、デモを主導し紛争解決を優先課題に掲げる民主化勢力は速やかな民政移行を求め、交渉が続いています。JVCの活動地である南コルドファン州で続く紛争は、事実上の休戦状態が続き落ち着いていますが、多くの避難民の児童が教育の機会を得られずにいます。また帰還が始まった村々では、紛争で壊された井戸や学校の再建が必要です。



草葺の校舎。風雨の影響を受けやすく机・椅子もない。

### 出生登録支援

**[活動概要]** 紛争により父親が死亡・行方不明の場合や、母親が避難先で婚姻関係に無い相手との間に子どもをもうけた場合には、裁判所への出廷が必要になり、子どもの出生登録の手続きが複雑になります。多くの避難民児童がこのような状況にあり登録を持たないため、JVCは2016年から実施している出生登録支援を継続し、家庭訪問による調査のうえ、行政や住民リーダーと協働して登録手続きをサポートしました。

なお、カドグリでの出生登録支援は3年目となり、出生登録の必要性についての理解が浸透しつつあります。そのため今後は、現地住民や行政のイニシアチブにより登録が行われるよう、住民リーダーや行政担当者を集めて話し合い、出生登録の定着に必要な行動計画の作成などを行いました。



子どもたちの出生登録証を受けとる母親たち

**[成果]** JVCの支援により558名の児童が

出生登録を取得しました。戸籍の基礎となる出生登録を得たことにより、就学機会や行政サービスへのアクセスの拡大が期待されます。今後は、各コミュニティを訪問して登録状況などについてフォローアップを行い、出生登録の必要性についての意識付けや関連する課題について話し合い、登録の定着を目指します。

### 学校の校舎建設

**[活動概要]** 出生登録を取得した児童の就学機会を確保するため、避難民居住区に新設される学校の校舎を建設しました。また、人々が帰還を始めた村々では、紛争中に破壊されるなどして校舎が不足し、草ぶきやトタン屋根の東屋を使用している学校が少ないため、小学校3校で教室を増設しました。また、不足が著しい机・いすの支援も実施しました。

**[成果]** 出生登録を得た子どもたちの就学機会が拡大し、これまで東屋などで学んでいた児童が、風雨の影響を受けることのない教室で学習する機会を得ました。また、石の上に座るなどしていた児童が、机やいすを使用して